World Watching 246

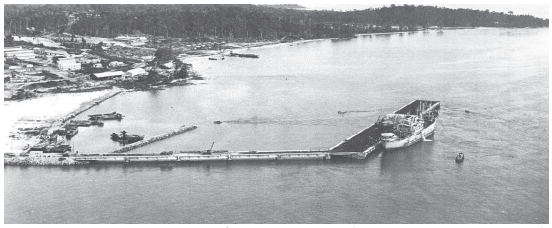
ワールド・ウォッチング

我が国支援と共に成長する シハヌークビル港

廣瀬　敦司
在カンボジア日本国大使館
二等書記官

はじめに

カンボジアの主要港湾は、首都プノンペンの河岸に位置するプノンペン港と、カンボジア南部のタイ湾に面したシハヌークビル州に位置するシハヌークビル港があり、カンボジア唯一の大水深港かつカンボジアのコンテナ貨物の約6割（2019年実績）を取り扱っているのがシハヌークビル港である。本稿では、我が国からの支援に焦点を当て、シハヌークビル港のこれまでと、さらなる発展に向けた取り組みについて紹介する。



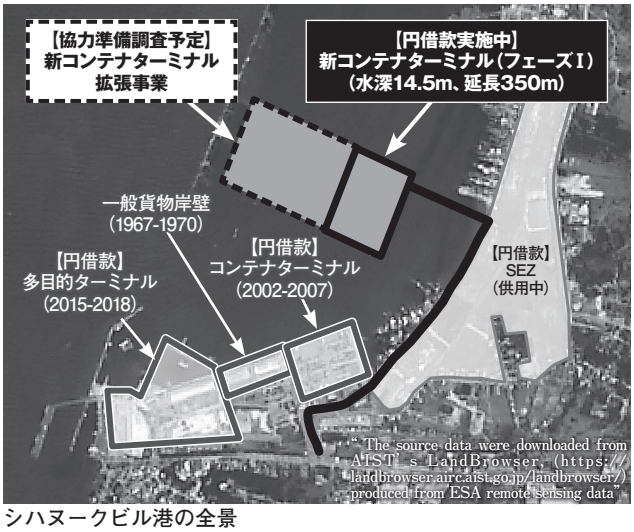
1960年代のシハヌークビル港の様子（現旧桟橋ターミナル）

我が国からの継続的な支援

我が国は、1999年から施設整備と運営技術向上の両面でシハヌークビル港の開発を支援し続けている。2007年には有償資金協力によりコンテナターミナルが完成し、2012年には同港に隣接した場所に経済特別区（SEZ）が開設された。2018年6月には有償資金協力により一般貨物を扱う多目的ターミナルの供用が開始されており（2018年10月、World Watching221を参照）、現在はさらなるコンテナ貨物量の増加に対応すべく、既存コンテナターミナルの拡張事業や新たなコンテナターミナルの整備など、段階的に施設の拡張が進められている。また、我が国は、これまでのシハヌークビル港への支援がより効果的かつ効率的なものとなるよう、同港を運営するシハヌークビル港湾公社（PAS）に対し技術協力プロジェクトや長期専門家派遣等を通じた能力向上支援を実施している。

新たなコンテナターミナルの整備による コンテナ取扱能力の向上

シハヌークビル港ではコンテナ貨物取扱需要が急伸しており、このままコンテナ貨物が増加すると、近い将来、現在のコンテナ取扱能力（80万TEU）を上回ることが見込まれていたことから、PASは、我が国に対しコンテナターミナルの拡張支援を要請。2017年8月7日、円借款「シハヌークビル港新コンテナターミナル整備事業」の交換公文が署名された。本事業により、同港のコンテナ貨物取扱能力は約45万TEU増加するとともに、大型船の入港が可能になるため輸送コストの削減にも繋がることが期待されている。PASの長期計画では、新コンテナターミナルは、コンテナ貨物需要の増大に応じて、3つのフェーズで整備されることとなっており、現在詳細設計中のフェーズⅠに加え、フェーズⅡ及びⅢが段階的に整備されることが位置づけられている。



シハヌークビル港の全景

PASの港湾運営能力強化に向けた支援

港湾の競争力向上のためには、港湾施設の整備とあわせて、港湾運営の能力強化が必要不可欠である。我が国は、港湾施設整備の支援に加え、2013年からPASの経営及び港湾運営能力強化を目的とし、JICAの技術協力プロジェクトにより2013年6月から2016年5月にかけて「シハヌークビル港コンテナターミナル経営・技術向上プロジェクト」を実施した（2017年5月、World Watching204を参照）。2018年3月から、引き続きとなる「シハヌークビル港コンテナターミナル経営・技術向上プロジェクト フェーズ2」で、PASの経営戦略策定能力強化を図るとともに、コンテナターミナル内外における荷役効率の改善に向けた支援など、我が国のODAを活用した同港へのハード・ソフト両面に対する支援を実施している。

また、2017年6月には港湾運送大手の株式会社上組がPASの株式約2%（議決権ベース）を取得し、さらに2019年5月には同株式の約11%（議決権ベース）を取得するなどPASの運営に参画している。また、2018年12月には阪神国際港湾株式会社がPASの株式2.5%（議決権ベース）を取得するなど、PASのコンテナターミナルの取扱能力向上や港湾管理・運営能力向上に向け官民一体となった支援を実施している。

これまでの我が国のシハヌークビル港への支援により、同港の貨物取扱能力が向上したことに加え、PASの経営戦略策定能力も強化され、その結果、近年の取扱貨物量も大幅に増加している（2014年の約33.3万TEUから、2019年には約63.9万TEUに増加）。同港への支援は、南部経済回廊の連携性を高め、「自由で開かれたインド太平洋」を促進する意味でも重要な事業となっている。

シハヌークビル港周辺における民間企業によるインフラ開発計画

シハヌークビル港周辺では、民間企業による港湾開発を含むインフラ開発プロジェクトが進められており、その代表的なプロジェクトを下記に紹介する。①は、首都プノンペンとシハヌークビル州とを結ぶカンボジア初となる高速道路となり、同区間の物流が促進され、シハヌークビル港の取扱貨物量増加に繋がることが期待されている。②～⑤は、シハヌークビル港の競合港になり得る可能性があるため、これらプロジェクトの進捗状況を注視しつつ、シハヌークビル港の競争力を高める取組みを続けていく必要がある。

①プノンペン～シハヌークビル間高速道路開発事業

2018年1月、スン・チャントール公共事業運輸大臣と中国交通建設股份有限公司（China Communications Construction Company：CCCC）がプノンペン～シハヌークビル間の高速道路建設をBOT事業で実施するため、50年間のコンセッション契約に署名。同プロジェクトは、延長190km、総事業費約20億米ドルで、中国路橋工程有限公司（China Road and Bridge Corporation：CRBC）が工事を実施しており、2023年に完成予定。

②シハヌークビル州ストゥンハブ地区におけるSEZ及び港湾開発

2018年1月、当地華僑系カンボジア企業のAttwood Investment Groupと中国冶金科工集団有限公司（China Metallurgical Group：MCC）との間で、ストゥンハブ港及び同港SEZの包括的協力覚書に署名。

③カンポット州SEZにおける深海港開発

カンボジア民間企業により、2005年から1,000haの土地（埋立含む）で、カンポットSEZ及びカンポット港（水深12m）の開発を実施。

④カンポット州における深海港（コンテナターミナル）開発計画

カンボジアの高級木材の輸出業者であるTry Pheap Groupと中国の広西北部湾国際港務集団有限公司（Guangxi Beibu Gulf International Port Group）との間で、カンポット州における深海港建設のフィージビリティスタディ実施に関する協力覚書に署名。

⑤コッコン州における巨大リゾート開発

天津優聯投資発展集団（Tianjin Union Development Group：UDG）がコッコン州南部において、2008年に99年間のコンセッションを獲得し、巨大リゾート開発を実施中（面積4.5万ha、事業費38億米ドル）。同リゾート開発には空港や港湾等のインフラ整備も含まれている。

更なる発展に向けて動きだすシハヌークビル港

将来的なコンテナ貨物の増加に対応するため、PASは、既存コンテナターミナルの改修やクレーンの増強等による短期的な対策を実施しているものの、2023年にはコンテナ貨物量が115万TEUを超えると見込んでおり、コンテナ船の大型化を踏まえた大水深の連続バースの必要性が高まっている。これらを踏まえ、JICAはシハヌークビル港新コンテナターミナル（フェーズⅠ）に続く新コンテナターミナル拡張（フェーズⅡ及びフェーズⅢ）に係る協力準備調査を予定しており、同調査の結果、新コンテナターミナル拡張事業が実施されれば、同港に大水深で1,000m級の連続バースを備えたコンテナターミナルが完成することになり、同港の貨物取扱能力の向上、ひいてはカンボジアの貿易促進及び経済社会開発の発展に寄与することが期待されている。

※本稿の内容は個人の見解であり、組織の見解を表すものではありません。